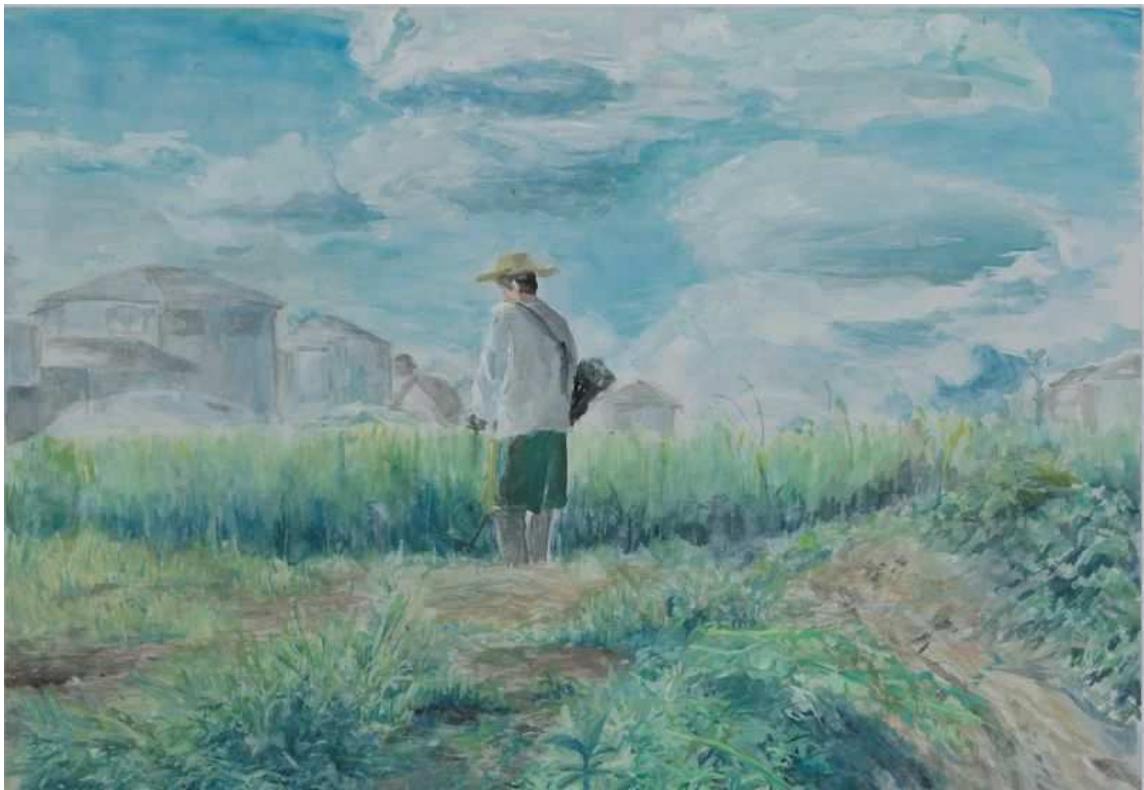




N O. 1 6 3
令和7年10月発行
一般 埼玉県校外教育協会
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
TEL : 048-830-6748
ホームページ [埼玉県 校外教育](#)

特集「令和6年度 校外教育協会委嘱研究」



令和6年度 第59回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「父は夏の戦士」
行田市立忍中学校 2年（当時） 猪熊 美春 さん

（作者から（当時））

夏の朝、しづとい雑草に挑む戦士のような父に、感謝の気持ちを込めて描きました。朝の爽やかな空気や静けさの中にあるダイナミックな雑草の様子を、遊びのある筆づかいで表現しました。

主な内容

- ・会長あいさつ (2)
- ・令和7年度通常総会、校外教育研究委嘱 (3)
- ・令和6年度校外教育協会委嘱研究の概要 (4~7)
- ・第60回記念「郷土を描く児童生徒美術展」 (8)



被爆二世と知った高校時代 埼玉は郷土愛を育くんだ泣ける県

～郷土愛を育む～埼玉県校外教育協会会長 村上博俊



皆さん、看板は！ 皆さんはそれぞれの組織の看板です。そして・・・

～「郷土愛を育む」埼玉県校外教育協会～ の看板は「郷土を描く児童生徒美術展」です。

第60回となります。12月20日(土)・21日(日)埼玉県近代美術館（北浦和駅より徒歩3分）

ぜひ、お越しください！！ 私も知事賞の絵画と共に二日間とも詰めております。

さて、今日は皆さんに感謝を込めて、私の「埼玉に対する郷土愛」を語ることにします。

私は広島で生まれ、小学校3年生からは父の転勤により福岡で過ごしました。高校生になってはじめて被爆二世であることを知りました。なぜなら、幼くして分かれた母のことをその年になって知ったからです。当時この埼玉県が被爆者にやさしい県と知り、大学受験で、母と共に埼玉に来て以来54年。穏やかな気持ちで過ごし、お会いした方々から、多くのやさしさを頂き、辛く悲しく苦しい時も、心豊かで楽しく忘がたきMyWayを歩いてきました。

母らしく、今年、令和7年の広島平和祈念式典を見届けた翌日8月7日の未明2時30分、九十二歳で静かに眠りました。癌の手術を自分から懇願、1年ごとに3度の手術後、退院して1年2か月の自宅介護。多くの方々のご理解・ご協力・勤務の融通などもしていただき、なんと私も妻も勤務を続けたまま、多くの関係者が自由に自宅に出入し介護していただけるように体制を整えることができました。母は介護に関わる方々にお会いできるのを毎日楽しみに、感謝に満ちた時間を送ることができました。それは関係の方々が被爆者に関する複雑な書類の数々を勉強してまで担当していただき愛情に満ちた適切な対応をとっていただいた御陰です。

私は新任時代から退職するまで、無能さのためか仕事に追われ、妻も勤務していたため母に子供たちを任せることが多くありました。母は幼くして別れた私と重ね合わせて、それを埋めるほど毎年夏休みに様々な体験をさせるなど愛情を注いでくれました。病院か自宅介護かを決断すべき時期、可愛がってもらった孫たちは、「おばあちゃんは家に居たいはず」と介護に協力し、特に最期の2か月は曾孫も毎日連れて来てくれ、皆に見守られて安らかに息を引き取りました。

自宅の全焼、子の生死を彷徨う交通事故など心が折れそうな中、明るく常に前を向き勇むよう示唆してくれた母の人生。最後は、我が家近くに建立した父の眠る墓に入ることまで私に実現させてくれました。十年前、福岡に行き父の介護をした母に、父は「埼玉で、安行で安らかに行きたい（逝きたい）」との遺言を残しており、それを果たした末のことです。

その折その折、心に残ることが一杯の埼玉に、半生を離れて暮らした父も母も私も居ります。

教育のために東奔西走した日々を思い出しながら埼玉の子供たちの絵をみる至福の二日間。絵から深いものを読み取ろうと思う。

私が埼玉県に感じる気持ち、それは「泣ける」である。

今のが「郷土を描く」としたら「父母が眠る墓」と題して題名と裏腹に感謝の気持ちを前面に出し澆灑とした明るい色の力強い絵にしたい。

実際に見ることのできなかった語らう二人も描いたらどうだろうか。



令和7年度 通常総会

令和7年6月6日(金)に、埼玉県庁教育局分室で令和7年度通常総会を開催いたしました。

当日は、令和6年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

校外教育研究委嘱



令和6年度研究委嘱校による研究の概要については、次ページ以降に掲載していますので、御覧ください。また、令和7年度研究委嘱校及び研究テーマは以下のとおりです。



«令和7年度校外教育研究委嘱校及びテーマ»

朝霞市立朝霞第三小学校

「学校・家庭・地域と連携した持続可能な学習及び活動の実践」

杉戸町立西小学校

「未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成
～総合的な学習の時間と生活科の授業づくりを通して～」

さいたま市立西原中学校

「主体的に学び ふるさとを愛する心豊かな生徒の育成」

熊谷市立三尻中学校

「地域及び校外での体験活動を通して、生きる力を身につける生徒の育成」

「豊かな関わり合いを通して、主体的に学ぶ子どもの育成」

委嘱校 さいたま市立東宮下小学校

1 研究主題

本校は豊かな自然環境に恵まれ、体験活動の制限されたコロナ渦で始まったヨーロッパ野菜栽培も現在5年目となる。今年度は地元企業・地元農家・学校と三者の連携で取り組みながら、栽培を通して食のありがたさ、地域に感謝するという視点をさらに加え、「主体的に生きる力」について体験活動を通して育んでいきたいと考え、テーマに設定した。

2 本校の取組 ～ヨーロッパ野菜作りを通した体験活動～

(1) 野菜作りのプロとの連携

5・6年生が合同で総合的な学習の時間で栽培している。昨年度から地元農家のご協力を得て畑に地元農家のトラクターが入り、土の質や状態が大きく変わり、トキタ種苗から教わったヨーロッパ野菜の栽培のアドバイスもいただいた。



(2) 野菜販売の宣伝についての交渉

公民館を利用する市民の方に、野菜販売の宣伝をしてよいか自作のチラシを使って公民館職員に交渉した。



(3) 年2回のヨーロッパ野菜販売

野菜販売のこの収益は、自分たちが育てた野菜の苗代や肥料代として地元農家に支払っている。野菜は保護者のみならず、地域の方も購入し、喜んでいただいた。販売活動を通して収益を上げることで栽培活動の新たな価値づけが生まれている。



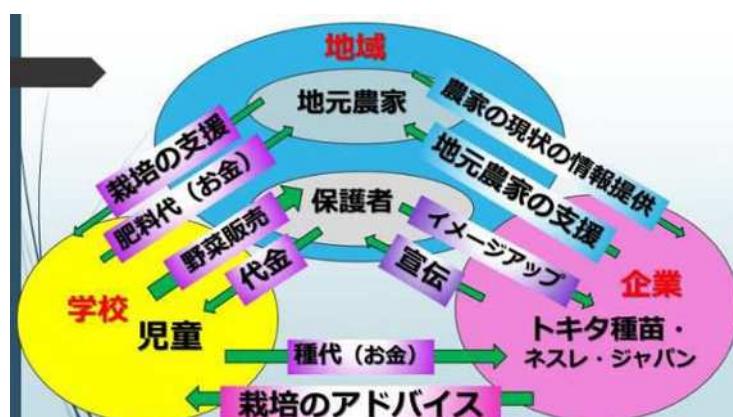
(4) 地域・企業・学校の三者連携からキャリア教育へ

ヨーロッパ野菜を育てることが地域のみならず、保護者も巻き込む形となった。児童達の中には地元の農家にもっと貢献できるのではないか、若者の農業離れを問題視する児童から意見も出ていてキャリア教育の一部を担っている。

3 成果と課題

豊かな自然環境に囲まれた中での野菜栽培・米作りの体験活動は、自らの手で育て収穫する喜びを味わうだけでなく、その喜びをお世話になった方、より多くの人に伝えたいという動機が児童のさらなる感動体験につながっている。販売した野菜の収益は、今年度も苗代、肥料代として支払うことができた。

農業の知識や経験のない教員のみでは、現状の活動は困難を要する。今後も栽培する野菜の選定・農業技術・販売方法を専門するゲストティーチャーを活用し、保護者・地域を巻き込んだ地域に根ざした開かれた教育課程の構築と「この活動を通して、自分は地域に何ができるのか」という自ら考え、行動する問題意識をもった児童の育成に努めていきたい。



「地域人材を生かした体験活動による心豊かな児童の育成」

委嘱校 吉見町立東第一小学校

1 研究主題

豊かな自然に恵まれた本校では、登下校の見守り、読み聞かせボランティア等、多くの地域人材に支えられて教育活動を行っている。そこで、地域人材を生かした体験活動を更に充実・発展させることで、児童のコミュニケーション能力や豊かな心を育成したいと考え、本研究のテーマを設定した。

2 本校の取組

<通年> 東一ブックキャラバン（読み聞かせボランティア）による「読み聞かせ」（全校児童）
吉見町社会福祉協議会と連携した「福祉教育」（3～6年）
子供安心110番の家訪問（全校児童 年間4回）

6月 吉見観音住職による「食育」に関する説話と厄除け団子を食べる会（全校児童）

町内小学校交流会（2年）

町探検（ホームセンター・駐在所・ガソリンスタンド）（2年）

【東一ブックキャラバンによる
読み聞かせ】



10月 地域人材を活用した「キャリア教育」（5・6年）

町内2校合同社会科見学（3・4・5年）

ヒートベアーズによる「投げ方教室」（全校児童）

11月 地域のいちご農家による「いちご栽培の体験活動」（3年）

町内小学校交流会（1年）

【地域のいちご農家による
いちご栽培の体験活動】



NPO法人熊谷ピンクリボンの会による

「がん教育と命の学習」（3～6年）

1月 地域人材を活用した「昔遊び体験」（1年）

武蔵丘短期大学と連携した「食育」（全校児童）

【地域の見守り隊への感謝の会】



吉見町立図書館・吉見農産物直売所見学（2年）

東京理科大学と連携した「紙飛行機教室」（5年）

2月 町内2校合同中学校体験見学（6年）

3月 地域の見守り隊への感謝の会（全校児童）

3 成果と課題

（1）研究の成果

地域人材を活用した多様な体験活動や外部講師による専門性の高い学習を通して、自己肯定感を高めながら、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。また、他者と交流する中で、相手のことを思いやる心豊かな児童の育成も行えた。さらに、iPadや一人一台端末を活用することで、他校との交流や児童相互の情報伝達をスムーズに行うことができ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。

（2）今後の課題

体験活動を更に充実させていくために、地域人材の発掘とその効果的な活用方法が課題である。また、教科との繋がりや系統性を意識した活動を行えるよう年度ごとに振り返りを丁寧に行い、次年度に繋げていく必要がある。

「地域との連携する活動を通し、地域に貢献できる生き生きとした生徒の育成」

委嘱校 伊奈町立南中学校

1 研究主題

「地域との連携する活動を通し、地域に貢献できる生き生きとした生徒の育成」

【設定理由】本校の生徒は、地域の方と触れ合う機会が減少し、様々な人と積極的に関わる力が身に付いていない。生徒会と学校運営協議会の座談会を年に2回程度設けており、中でも、地域の人と関わりたい気持ちがあることが分かった。そこで、学校運営協議会委員の協力を得ながら、地域行事への積極的な参加機会を設けるなどして、生徒のコミュニケーション能力を育成したいと考え設定した。



2 本校の取組

- (1) 学校応援団との協働活動：生徒会本部が、キャッチフレーズ「ちょボラ」（ちょっとしたボランティアの略称）のもと、今年度は花苗の定植、除草作業を全校に呼びかけ、学校応援団の方々との協働活動を行った。今後、ゴミ片付けや地域の公園の清掃等にも発展して取り組む予定である。
- (2) 小中連携の取組（教育相談部会、生徒指導部会・出前授業・部活動体験等）：夏季休業中に、学区内の南小学校教員との連携を図り、生徒理解を深めるために教育相談部会と生徒指導部会を実施した。また、中1ギャップ解消に向けての手立ての一つとして、第3学期に中学校教員を小学校へ派遣して出前授業の実施や小学校児童が来校して教室訪問や部活動見学を行う体験活動により、円滑な接続を図るための取組を行った。
- (3) 社会体験チャレンジ事業：近隣の事業所等に協力を得ながら、生徒は24か所の公共施設や事業所に分散して、2日間の職業体験を行った。生徒はしっかりととした態度で臨み、地域の方々とふれあいながら様々な職業体験をすることができ、将来の目標を立てるなどキャリア教育の一環としても、学びの多い貴重な体験となった。
- (4) Japan-Nepal Project 2024：令和4年度より実施しているネパールとの交流会を全学年で行った。日本との時差が、-3時間15分あるカトマンズのGEMS校とZOOMを用いたオンラインによる英語での交流では、互いの国の紹介や簡単なゲームを行い、コミュニケーションを図ることで国際交流の意識が高まった。
- (5) 地域祭りボランティアへの参加（吹奏楽部の演奏）、地域清掃ボランティア（伊奈まつり）への参加：ボランティアの依頼や募集に積極的に取り組む姿が見られた。本校の吹奏楽部は、地域の祭りでの演奏をはじめ、日本薬科大学での「ふれあいコンサート」での演奏や町ショッピングモールでの演奏、年度末には保護者・地域の方をお招きしてコンサートを開催している。
- (6) 学校運営協議会での座談会：テーマ「南中学校をよりよくするために」のもと座談会を開催した。校則改定後の様子や通学路の安全等について、共通理解を図るとともに熟議を通して、今後の取組等を考える貴重な時間となった。
- (7) 本校美術部と園児の共同制作で完成した作品を南保育所フェンスに設置した。コロナ禍で使用し、今は不要になったアクリルのパーティションを再利用した看板は、日の光を浴びると美しく見える。また、駐輪場の壁には、親子で楽しく写真撮影できるスポットになる幕絵を設置した。



3 成果と課題

生徒は学区内だけでなく多くの方々と関わることができた。生徒へのアンケート調査からは、貴重な体験を通して学ぶ機会をもつとともに、自らの「自己効力感」が高まっていると感じていることが分かった。

計画の時点では学校側と地域の方々とのスケジューリングが必須であり、天候等により急遽、延期や中止の場合まで含めると、代替案を用意する必要がある。今後も、「段取りと後始末」をサポートしながら、生徒の主体的な活動に結び付き、学校・家庭・地域のWealth-Buildingにつながる取組となるよう創意工夫に努める。

地域や外部人材等とのつながりを生かした豊かな体験活動を通して「自ら考え、進んで実行」できる生徒の育成

委嘱校 吉川市立東中学校

1 研究主題

本校ではコロナ禍を経て、学校と地域や外部人材とのつながりが希薄化してしまった。そこで、"地域とともにある東中学校"として、地域や外部人材との持続可能なつながりを再構築し、学校教育目標である「自ら考え 進んで実行」できる生徒を育成すべく、本研究主題を設定した。

2 本校の取組

生徒が地域や外部人材等とつながりを通して、実際に体験する場を増やし、「知っていること」（知識）と「していること」（体験）の調和のとれた教育活動となるよう、年間を通して様々な【連携】を全学年で実施した。

【地域との連携事例】「アジサイ」講習会

学校敷地内に数多く咲き誇る「アジサイ」は東中学校の象徴であるが、年々、植生に勢いがなくなってきた。そこで、地域人材を活用し、「アジサイ」の剪定、管理等について活動を行った。講師の指導助言を受けながら世話をすることで、未来につながる「アジサイ」の育成について学ぶことができた。



【市との連携事例】ASE 体験

ASE とは「Action(実際的活動)」「Socialization(社会化)」「Experience(体験)」の略で、様々な身体的、精神的課題解決を通じ、集団成熟と自己成長を図る活動である。市内の公園に施設があることから、市との連携を図り、実施した。関係する大学の先生からの指導を受け、生徒たちは、存分に体験ができた。



【企業との連携事例】

「大阪・関西万博」への出展企業による出前授業

修学旅行の行程に組み込んだ「大阪・関西万博」について興味関心を高めるために、内閣官房国際博覧会推進本部所管の事業に応募し、実現した。出展企業担当者から「大阪・関西万博」の理念を聞き、SDGsの達成や未来社会について考える機会となった。



【外部人材との連携事例】ボランティア特別授業

ボランティア活動で実際に活躍されている「ちよんまげ隊長ツンさん」をお呼びしてボランティア特別授業を実施した。当日は保護者にも来校を呼びかけ、ボランティアのこと、今の「能登」のこと、日本各地の被災地のこと等、映像や実体験を踏まえた話を聞き、「自分のできること」を考える機会となった。



3 成果と課題

- 地域や外部人材の人たちの思いに触れることで、「自分たちの学校は、多くの人々に支えられていることに気づき、感謝の思いをもって、学校や地域に進んで関わろうとする生徒が増えた。
- 課題を自分事としてとらえ、学習に取り組む生徒も増えてきている。
- ◆地域や外部人材との持続可能な win-win な関係づくりが課題である。



第60回記念「郷土を描く児童生徒美術展」



趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2025地域文化事業」として行います。

主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県 埼玉県教育委員会 埼玉県芸術文化祭実行委員会

共 催 さいたま市教育委員会 埼玉県市町村教育委員会連合会 埼玉県美術教育連盟

期 日 中央展覧会

令和7年12月20日(土)～12月21日(日) 10時00分～16時30分 (12月21日は16時00分まで)

知事賞作品120点を展示します。

受賞者名簿(知事賞)は校外教育協会のHPに11月中に公開する予定です。

会 場 埼玉県立近代美術館

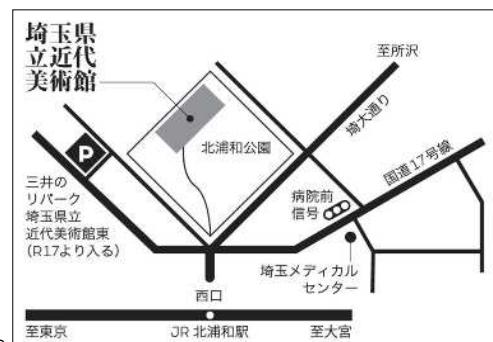
(さいたま市浦和区常盤9-30-1)

【電車】

JR京浜東北線北浦和駅西口徒歩3分(北浦和公園内)

関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。

御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。



～第59回美術展の作品から～

表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。

【区分】

特選：約1,010点

(知事賞作品120点を含む。)

入選：約10,000点

知事賞作品は「画集 埼玉子どもの絵」

(埼玉新聞社発行)に掲載されます。



「たまごをまもるダチョウ」
美里町立大沢小学校 2年 (当時)
廣瀬 壱登 さん

(作者から (当時))

お母さんダチョウが羽を大きく広げて、たまごを守る姿を描きました。明るい色をたくさん使い、美しくて強いダチョウをイメージして描きました。

H P **埼玉県 校外教育** で **検索**

すると協会のトップページから入れます。